

2018年度 早稲田大学大学院教育学研究科
博士後期課程 専門職業人入学試験問題 [小論文]
【教科教育学専攻（数学科教育学・数学科内容学）】

解答上の注意

1. 問題Ⅰまたは問題Ⅱから1問を選択して解答しなさい。また、選択した問題番号を解答用紙の所定欄に記入すること。
2. 解答用紙の所定欄に、研究指導名・指導教員名・受験番号・氏名を必ず記入すること。
3. 解答用紙が複数枚配付された場合、ホッチキスははずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。
4. 問題用紙は「2ページ」（本ページ含む）、解答用紙は「1枚」です。必ず枚数を確認すること。

以 上

2018年度

早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題
専門職業人入試 科目名 小論文 (数学科教育学・数学科内容学)

問題 I

数学教育における評価の対象は、時代と共に変化しています。

従前、生徒の学習に関する教師の評価は、同一の尺度による公平性や明瞭性、および評価のしやすさ等の観点から、学習の結果の評価に力点が置かれていたようです。

現在、評価の対象が、学習の「結果から過程へ」にシフトしてきています。

では、生徒の数学学習の評価をする上で、なぜ生徒の学習過程そのものへの着目が重要なのでしょうか。具体例を交えて、説明しなさい。

問題 II

2012年度から実施されている文部科学省の学習指導要領によれば、

小学校では「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」、

中学校では「数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる」、

高等学校では「数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる」

となっている。

これらを元に、以下の各問に答えよ：

- (1) 「小学校」「中学校」「高等学校」のいずれかを選び、これまでの経験を踏まえ、算数・数学教育の理念およびその実践に関して考えるところを述べよ。
- (2) 「小学校 ⇒ 中学校」あるいは「中学校 ⇒ 高等学校」のいずれかを選び、これまでの経験を踏まえ、算数・数学教育の流れに関して、「楽しさ」、「よさ」という言葉を用いて考えるところを述べよ。